

日流刑となり、文政元年八月廿二日丹羽富之助種甫・寺西庄兵衛武養の命ぜられるに至つた。藩末には御大小將横目と打込み之を勤めた。

ヨコメアシガル 横目足輕 御横目足輕は、御横目に屬する下役の足輕である。

ヨコメカタニツキリヤク 横目方日記略

十五冊。一名江戸御横目日記。貞享二年四月六日から正徳五年九月二日までの加賀藩の江戸邸に於ける御横目役の日記である。

ヨコヤスエチヨウ 横安江町 金澤の町名。

藩政の時、本町の横安江町と地子町の横安江町とがあつて、本町の方は俗に目細小路といひ、地子町の方を表具屋小路と呼んだ。今は舊の横安江町を裏安江町といひ、舊の東末寺町を横安江町と稱することになつた。

ヨコヤマ 横山 河北郡金津庄に屬する部落。

ヨコヤマウチ 横山氏 (一)世系—加賀藩の老臣八家中の一つで、長隆・長知・康玄・忠次・立位・任風・貴林・隆達・隆從・隆盛・隆章・隆貴・隆平の中、康玄・隆貴は家を襲がなかつたから、凡べて十一代を數へ、祿少き時は二萬四千字を受け、多い時は三萬二千五百石にも及んだことがある。隆平の時明治三十三年五月特に華族に列し、男爵を授けられた。

(二)邸第—第二代長知の時初は金澤城内三ノ丸に居住し、後新丸に轉じた。當時横山氏を新丸家と呼んだといふ。元和六年本丸火災の時、前田利常は新丸邸に假寓し、横山氏はその下邸に移つたこともある。その後城内の士を城外に移した時、廣坂本多氏の向かひ、今の金澤神社及びその前面の地を賜ひ、三代左

衛門忠次、四代大膳立位・五代山城守任風までこゝに居たが、元祿九年九月轉地を命ぜられ、十五年材木町のうしろなる下屋敷の地、即ち今の横山町に移つた。之より數代こゝに連綿したが、廢藩の際退去し、明治三年その居館を陸軍營所の分營に充て、十二年に至つて建物を撤去した。

(三)下邸—三輩記に、慶長十九年前田利長高岡にて薨じ、後室玉泉院はやがて金澤に移つて、横山大膳の下邸に入つたとある。この大膳は即ち長知で、その下邸といふものは、後に至るまで下邸とした今の横山町の地であらう。又十二冊御定書普請會所の部に「享保十七年横山大和守下屋敷數、牛坂村領之内四千字許相渡り、がけの方空地出來之處、二千歩許請地に相成。」とあるは、今の上鶴間町の地である。

ヨコヤマウチヨリ 横山氏從 横山長治の三男で、後に兄式部長昌の養子となつたものの。通稱三吉・左馬助・式部・外記。初諱常知。治之。正保元年兄の遺知の内四千字を受け、延享二年八百石を加へ、後に母海元院の遺知四百石を加へ、合計五千二百石(内與力知三百石)を領し、寶永三年十月二十日七十歳で歿した。その筆記に係るものに白山一件覺書がある。

ヨコヤマエキ 横山驛 加賀の古驛名。余古也萬と訓む。兵部省式に加賀國横山驛馬五匹とあり、今河北郡に横山が存する。

ヨコヤマカデンシヨ 横山家傳書 一冊。卷首に『御尋に付而書記上之申候』とあつて、横山半喜長隆以來の戦功が記され、寛文九年十月横山如雲が長谷川五右衛門に與へたもの

である。如雲は初名齋藤兵部で、横山長隆の女が齋藤内藏助利三に嫁して生む所と傳へられるが、その父の利三たることは誤傳であらうと思はれる。

ヨコヤマコゲツ 横山湖月 名は弓子。横山隆達の子で、長連敷の室であつた。湖月と號して、北宗の畫を能くし、その落款には多く瑠浦沈清女と書き、剃髮の後は履信院と稱した。

ヨコヤマサダハル 横山定治 通稱雅樂・隼人。初諱長堅・正明・豊知・正晴・知房。長知の八男。正保三年長知老後の祿二千石を受け、人持組に班し、奏者役となり、寶永三年七十三歳を以て歿。子孫藩に世襲する。

ヨコヤマジョウシウブコウシヨ 横山城州武功書 一冊。横山長知が末森役・鳥越役・筑紫陣・關東陣・大聖寺役・大坂役、及び金澤城にて太田但馬長知成敗、越中守山城にて半田助右衛門成敗等の功績を記する。已九月十三日今枝民部に與へたるものであるが、已年がいつであるかは明らかでない。

ヨコヤマタカアキラ 横山隆達 加賀藩の老臣横山氏第七代。貴林の子。享保十三年六月十三日出生。通稱時次郎・大膳・求馬。また大膳、諱は長徳・長烈・隆達。寛延元年六月八日貴林の遺祿三萬石(内四千字與力知)を受け、寶曆七年十二月廿七日從五位下山城守に叙任し、明和八年山城守を河内守と改め、安永五年十二月廿七日四十九歳を以て卒した。法號長々齋圓應隆達大居士。隆達字は好義、藍關又は學堂と號し、經史に涉り、詩を能くし、その樓を乾々と名づけて、毎月二日學士儒生を集めて雅宴をこゝに張り、二十年來未だ之を廢しなかつた。

ヨコヤマタカアキラ 横山隆章 加賀藩の老臣横山氏第十代。隆盛の嫡男。文化二年六月十日出生。通稱三郎・求馬。十三年十月廿五日遺知三萬石(内四千字與力知)を受け、文政十年十二月廿五日從五位下山城守に叙任し、天保十四年十一月廿二日山城守を遠江守と改め、萬延元年十一月十二日享年五十六歳を以て歿した。法號賢松院龜山隆章居士。

ヨコヤマタカオキ 横山隆貴 横山隆章の嫡男。文政十年十一月十三日出生。通稱三郎・求馬亮・大膳。弘化元年二月十一日新知二千五百石(内五百石與力知)を賜はり、安政五年四月二十日享年三十二歳に父に先だち歿した。法號德雄院高山隆貴大居士。

ヨコヤマタカオキ 横山隆興 横山遠江守隆章の二子。嘉永元年五月十五日金澤に生まる。幼にして明倫堂に入り和漢の學を習ひ、又壯猶館に入つて操銃の法を學び、遂に大坂開成學校に洋學を研究し、明治二年宗家から家祿を割かれて別に一家を立てた。十二年宗家隆平と共に能美郡尾小屋銅山を讓受け、爾後刻苦精勵その業務を擴張し、廿七年飛騨平金鑛山を買收し、又四十年までに羽前大藏・萩野及び羽後宮田又の三鑛山を併せ、遂に豪富を以て天下に名を爲した。大正五年四月十三日歿、享年六十九。隆興傍ら俳句を好んで居中と號した。

ヨコヤマタカコト 横山隆誨 通稱豹藏・引馬。隆達の六子。天明六年大小將御近習番となり、表小將を経て、七年新知五百石を受け、御表小將横目より次第に昇進して御小將頭に至り、文政二年十二月十九日五十六歳を以て歿した。